

■発行：東金市・九十九里町

この広報紙は東金市、九十九里町が地域医療センター推進のために共同して発行するものです。

地域医療センター実現に 向けてスタート！

山武地域における医療センター計画は紆余曲折を経てきましたが、地域の医療の現場は一刻の猶予もない状況にあります。現在、東金市と九十九里町では千葉県から示された試案をもとに、実現化に向けた検討を始めました。

●**地域医療センターのコンセプト**
① 地域や患者のニーズに対応した医療の提供

大学が連携して努力
医師などの確保▼千葉県と千葉
※建設時10億7千万円、残りは10
年分割で補助
県支援総額▼85億6千万円
想定事業費▼123億4千万円
診療科▼17科

※新型救命救急センター14床
の危険のある重篤患者を対象とし、原則として初期救急医療施設及び2次救急医療施設（入院を必要とする重症救急患者）からの転送患者を対象とします

●**県試案の概要**

東金市と九十九里町では、1市1町で運営していくことについて、千葉県に可能性の検討を依頼しました。これに対して千葉県は試案を提示しました。試案の概要・コンセプトは次のとおりです。千葉県及び千葉大学の支援が、試案には盛り込まれています。

めざす医療センターの姿

山武地域では、医師不足や救急医療への対応が困難な状況が続いています。（くわしくは裏面）
また、「地域の医療は地域で担う」という千葉県の方針が出ており、県立病院のままで存続は難しい状況です。
そのため東金市と九十九里町では、地域医療センターの計画を進め、住民の暮らしと生命を守るため地域医療の再生をめざします。



搬送時間の長時間化は救命率の低下に直結します

危機的な地域医療の現状



地域医療の中核的な病院としての役割を担います

- ② 安全・安心で良質な医療の実践
- ③ 医師、看護師など医療スタッフの安定的確保
- ④ 民間的手法による効率的な経営
- ⑤ 財政負担の圧縮の工夫

千葉県
支援
千葉大学
地域医療センター
地域の病院・診療所と連携

地域医療センター計画を進めるため、協議の母体となる「検討協議会」が1月14日に正式に発足し、設立協議が東金市役所で開かれ、検討協議が始まりました。

●**検討協議会発足**
地域医療センター計画を進めるため、協議の母体となる「検討協議会」が1月14日に正式に発足し、設立協議が東金市役所で開かれ、検討協議が始まりました。

●**医療専門委員会発足**

県試案を基に協議開始

県から示された試案について、妥当性や課題を把握するため、民間の専門機関に検証を委託しました。その結果、安定的、継続的な運営のできる病院経営としていくには課題がいくつかあることがわかってきました。

また、1市1町の財政はともに大変厳しい状況が予想され、「自立的運営が可能な」市・町からの繰出金に頼らない「病院経営の形としていく必要があります。」（くわしくは裏面）

検証結果からの課題



建設費の圧縮や運営経費の無駄を省くなど今後の検討が必要です

●**医療センター検討協議会事務局設置**
東金市、九十九里町が推進していく1市1町地域医療センターの協議会などの事務を行うため、東金市役所内に医療センター推進室を設置しました。

1月14日には医療機能を専門的に検討する医療専門委員会も併せて発足し、専門家による医療機能などの検討を始めました。

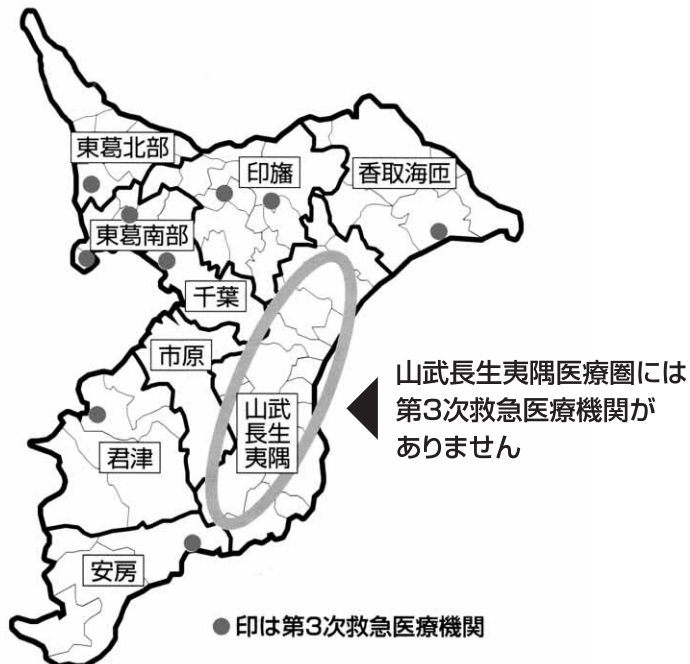
委員には、平澤氏を委員長とし、千葉大学の内科、外科、救急の各教授のほか山武郡市医師会会長、千葉県立東金病院院長、医療市民活動者からなる10人が委嘱されました。

●**医療専門委員会発足**

1月14日には医療機能を専門的に検討する医療専門委員会も併せて発足し、専門家による医療機能などの検討を始めました。

山武地域の医療の現状

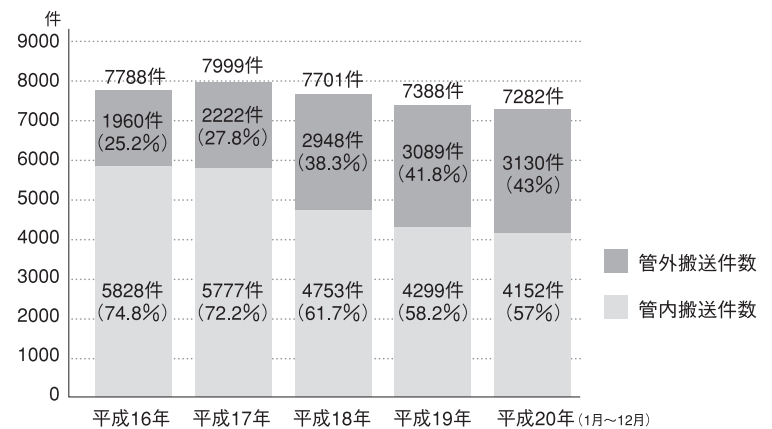
県内の保健医療圏と第3次救急医療機関（救命救急センター）



医療従事者数（平成19年度 山武健康福祉センター事業年報から）

平成18年度では、人口10万人に対する医師数は、県全体の159人に対し山武地域では92人で、県平均の58%にとどまっています。また、看護師数は県全体の427人に対し山武地域は251人で、県平均の59%となっており、医療従事者の不足が著しい地域といえます。

年々増える管外搬送（山武郡市広域行政組合消防本部管内）



資料:山武郡市広域行政組合消防本部

山武郡市広域行政組合消防本部管内の救急搬送件数は、減少傾向にありますが、地域外に搬送されている患者数は平成20年の実績で3130件となっており、全体の43%を占めるようになっています。これを平成16年度と比較すると17.8ポイント上昇しており、地域外の遠くの病院まで搬送されている患者数は年々増加の一途をたどっています。

特に脳卒中や急性心筋梗塞などは、搬送時間の長短が救命率に直結するため、この現状は深刻です。

搬送時間と
救命率との
関係

①心臓停止後
約3分で50%死亡

②呼吸停止後
約10分で50%死亡

③多量出血後
約30分で50%死亡

検証結果からの課題

県試案の検証結果から、本地域医療センターを公設公営とした試算では赤字になることが見込まれること、東金市・九十九里町がそれを支えるだけの財政力が見込めないこと、このため、「自立的運営が可能」「市・町からの繰出金に頼らない」病院経営の形としていく必要があるとされました。

主な事項は次のとおりです。

- ①新たな安定的財源の確保
- ②投資内容の抑制や投資時期の調整等により経営収支の平準化
- ③赤字体質に陥らないような経営、医療体制を最大限活用しうる経営体制の強化
- ④病院の経営収支や1市1町の財政事情を踏まえた柔軟な県の支援体制などの取組みや工夫

東金市・九十九里町の財政状況は大変厳しい状況にあり、ここ数年は恒常的な歳入（住民税や国県からの交付金、使用料など）では、いままでと同様な行政サービス（福祉、保健健康サービス、道路や排水路などのインフラ整備、また子どもたちの保育・教育施設の整備）などを十分にまかなうことはできない状況となっております。これは、最近の景気低迷による住民税の減少、国県からの交付金の減少などが特に大きく影響しております。

しかし、地域医療の問題を解決するための地域医療センターの推進は、この地域の最も重要なことからですので、継続的な行財政改革を進めながらその事業化を図っていく必要があります。

さらに、病院が立ち上がり病院経営を行っていく上では、市・町からの負担に頼らない経営の形が必要です。

千葉県・千葉大学の支援のもと東金市、九十九里町はこれら課題を克服し地域医療センターの実現に向けて検討を進めております。

Message

山武地域医療センター計画については、今までいろいろな曲折を経ましたが、県並びに千葉大の支援を頂く中で、1市1町による医療センターへの動きが進みつつあることは、県並びに千葉大の地域医療のための並々ならぬ理解と熱意があつてこそであり、改めて深く感謝するものであります。

県試案が示され、これに対して私どもとして検証作業をしてきましたが、条件的に厳しい部分はあるものの、実現の可能性は十分にあるものと確信しており、東金市、九十九里町は県の支援を得て事業主体として、医療センターを推進するための取組みをまいります。

本医療センターは、千葉県試案であるところの、314床、新型救命救急機能、臨床研修機能を前提とし、山武広域および周辺地域における医療課題を解決していくため、圏域としての中核的医療センターを目指す必要があると考えます。

また、本センターは千葉県の医療資源、とりわけ山武長生圏域内にある医療資源と連携し、適切な役割分担を行うことにより、必要不可欠な部分の施設整備と医療体制を構築することで、効率的運営・経営や圏域の医療レ

ベルの底上げを期待するものです。

また、今日、多くの公立病院が厳しい医療環境の下で経営難に直面し、国も公立病院改革ガイドラインを示し経営の強化、合理化を強く進めています。これから新たなスタートを切る病院として、現病院が抱える多くの課題が解決できるよう、十分な検討を行い、自立運営が可能な病院づくりがその基本となるものと考えています。

県試案並びに検証結果でも、経営収支についての厳しさが指摘されておりますが、公立病院改革ガイドラインを踏まえ、これを克服し経営体質を充実強化して持続可能な経営の形にしていく必要があります。幸運にも、千葉県の包括的な支援と千葉大学の強力なバックアップにより、その基礎は整えられていると考えます。

ただ、規模の小さな自治体が運営することで多くの課題もあり、千葉県をはじめ周辺自治体の理解も得て協力して推進することをその基本としていくことにより、安定感も補強できると確信しております。

今後、医療センターの実現化に向けては、求める医療レベルと経営出来る限界の両側面から検討を進めていく必要があり、検討協議会や医療専門委員会で互いの検

討の中で両立する形を作っていく必要があると考えております。

これから、新病院づくりにスタートするにあたり、関係者の協力の下、一つ一つ課題を解決し、一日も早い完成を目指したいと考えますのでよろしくお願いいたします。

東金市長 志賀 直温
九十九里町長 川島 伸也



写真左から:東金市長 志賀直温／センター長候補者 平澤博之氏
九十九里町長 川島伸也